

CSF（豚コレラ）の早期終息に向けた緊急かつ具体的な対策を求める意見書

昨年9月に国内で26年ぶりに発生したCSF（豚コレラ）は、関係者による懸命の努力にもかかわらず、この1年間で14万頭を超える豚の殺処分が行われるなど、甚大な被害をもたらしています。

また、感染地域が中部圏から養豚の主要産地を擁する関東圏にまで広がるなど、終息が見通せないどころか、さらなる広域化の様相を呈しており、CSF対策が新たな局面に入ったと認めざるを得ません。

こうした状況の中、養豚農家が今後も安心して経営を続けられるようにするためには、今回の事態を国家レベルの危機事案として受けとめ、CSFの終息に向けた緊急かつ具体的な対策が必要です。

よって、国会及び政府は、下記の措置を講じるよう強く求めます。

記

1. 飼養豚へのワクチン接種を速やかに進めるとともに、ワクチン接種済みの豚の円滑な流通に向け、取引価格の下落や風評被害が生じないように、あらゆる手段を講じること。
2. 今般のCSFの感染拡大の主な要因となっている野生イノシシへの感染を抑止するため、野生イノシシの捕獲強化や戦略的な経口ワクチンベルトの構築を行うこと。
3. 現在、アジア地域の各国において発生が確認されているASF（アフリカ豚コレラ）の国内侵入を防止するため、罰則の強化も含めた一層の水際対策の強化、徹底を図ること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

令和元年12月23日

枚方市議会議長 前田富枝

〈提出先〉

衆議院議長

参議院議長

農林水産大臣